

⑥8 21世紀の森公園整備事業（災害時拠点施設）

受賞機関 いわき市

キーワード 常時は公園、災害時は救援物資集積拠点**全建賞審査委員会の評価ポイント**

福島県いわき市の広域避難場所である21世紀の森公園内に、災害時において本市全域に渡る救援物資の集積・分配機能を担う災害時拠点施設を整備した取組み。

災害時に広域的な防災活動拠点とされる当該公園の屋外施設において、雨に濡れることなく物資を円滑かつ確実に搬出入できる大扉の設置など、活用しやすい構造となっているのが評価された。

1. はじめに

21世紀の森公園は、いわき市のほぼ中心部に位置し、本市を東西南北に繋ぐ一般国道6号や49号等の道路に近接した、交通便利性の高い総合公園である。このため、地域防災計画においては「広域避難場所」に指定されており、東日本大震災時は、避難所や自衛隊の宿营地となるなど、防災活動拠点として重要な役割を果たした。

本事業は21世紀の森公園内において、災害時における本市全域に渡る救援物資の集積・分配機能を担う災害時拠点施設を整備し、本市全体の広域的な防災活動の拠点としての機能向上を図るものである。

2. 事業の概要

本施設は、災害時に全国から届けられる救援物資を集約・管理・分配する機能を有する延べ床面積約3,346㎡の屋内施設であり、大屋根の膜構造としている。災害時の救援物資について効率的な搬出入を可能にする大扉（1枚：W≒2.6m×H≒4.0m）や大庇（奥行約3.7m）を採用した。構造計画については、主架構を58.7m×48.6mのブレース付ラーメン構造とし、十分な剛性と耐震性を確保した。詳細については、光の透過性が高い膜の大屋根（約3,000㎡）を採用し、自然光を取り込める構造とすることで環境負荷の低減に配慮しているほか、屋根面の水平ブレースには、福島県産材のスギと鉄のハイブリッド構造材を採用するなど、地域資源の有効活用を図りながらも、災害時の利用面において十分な備えと機能を発揮できる施設となった。



外観写真

3. 事業の成果

今回の事業では、物資を円滑かつ確実に搬出入するため、大開口が可能な大扉や風雨から守る大庇を採用したほか、光の透過性が高く自然光により明るさが確保できる膜屋根や、内部構造部材の一部に県産材を利用するなど、災害時の利便性・効率性の向上を図るとともに環境負荷の低減、地域資源の有効活用にもつながった。

なお、平常時には、フットサルやテニス、ゲートボールなどに利用できる21世紀の森公園内の屋内多目的広場として有効活用が可能となった。



内観写真

4. おわりに

本事業を完了できたのは市民の皆様、民間建設業界、行政などが一体となって事業に取り組むとともに、各業界の皆様からのご支援があったことから成し遂げられたものであり、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。